

申請人の被曝状況と健康被害

申請人	居住地(被曝時)	健康被害の状況
1(男性)	福島県相馬郡飯館村	<ul style="list-style-type: none"> ・2011年3月11日、山で伐採した木を重機で集めている時、地震が来ました。東京電力の原発が事故を起こすぞ、と思い、急いで家に帰り、水を何本かの携行缶に確保しました。 ・翌12日に一号機が爆発、テレビで見ました。14日の三号機爆発音は二度聞こえ、20分後テレビに映りました。噴煙と炎が上がり、煙が風に乗ってもろに飯館に来ました。 ・3月15日朝は雨が雪になり、黒いものが混じって降って来ました。金属の焼けるような臭いがして、周りの空気が赤錆色に見え、肌がピリピリ痛み始めたので、家に閉じこもっていました。スーパーに行き、戻って風呂に入ると皮膚の表面にヒリヒリ感があり、風呂から出るとヒリヒリからピリピリになりました。その間も焼けた金属臭が続いていました。 ・標高の高い自宅の前方は緩やかに低くなって谷間が広がっています。3月15日以降は、谷間に霧が漂い下の方は見えません。霧は赤錆がかかっていて、下の集落の上にかぶさり、何日も消えませんでした。23日に知人のところに掛り霧の中で車から降りると、皮膚にピリピリ感がありました。その頃は、下痢が続く状態になっていました。 ・3月29日から5月末まで、津波被害を受けた相馬市の遺体捜索で、朝六時に飯館を出て夕六時に帰宅していたのですが、捜索中は下痢が止まり、飯館に戻ると腹が下るんです。 ・6月26日に、福島市荒井の自治研修センターに避難しました。そこから、1日置きに二人で乗車して、飯館村の夜間パトロールをしました。一時間半かけて自分の住んでいた小宮地区に行き、1回2時間のパトロールを2回しました。13μSv/hの家もありました。すごく疲れ、また毎日下痢をするようになりました。 ・帰宅して風呂に入ると、白い風呂の底が見えないほど真っ黒い物が沈んでいるのです。3号機の爆発の時に、黒い噴煙が上がり灰が飛び散った。初めは雨だったからわからなかったけど、それが途中で雪に変わり、黒い雪だったと多くの人が言っています。浜通りでは、白い灰のようなものが落ちて来た、と言う人もいました。マーシャル諸島の水爆実験の時、雪が降ったというと同じような白い物が落ちて来たのです。落ちたのが乾いて舞い上がり、皮膚についたんじゃないか。 ・同じ地区の人が、「風呂に入ると風呂の水が青い」。事故前にそんな風呂の水なんて聞いたこともなかったのでは
1(男性) 続き	福島県相馬郡飯館村	<ul style="list-style-type: none"> ・2011年8月に伊達市の仮設住宅に移りましたが、顔色も悪く、翌年、病院で胃に赤いポツポツがあり、心臓が肥大し、飲酒しないのに肝臓が悪い、ストレスだと言われ、パトロールをやめました ・当時、パトロールをしていた人はみな顔色が黒ずんだ感じで、放射線の外部被曝だけではなく内部被曝の影響もあったのかも知れません。 ・国内各地から、原発事故の体験の講演に呼ばれるようになり、福島を離れるようになって半年くらい経つと、肝臓はよくなっていると診断されました。 ・2011年12月、札幌のよさこい祭に行き、新潟から船に乗って、夜、船の風呂に入り、頭髪をシャンプーすると髪の毛がバツサリ抜けました。痛みはありませんでした。髪の毛が生えた状態で浴室に行き、禿げて出て来ました。 ・2013年から子ども保養プロジェクトの副代表になり、2016年年9月、保養先から子どもたちを福島に連れ帰るために祝島に行った時、急に体が熱くなり、右腕が硬直し、右足も動かさにくく、頭がボーッとて、その後、意識がなくなりました。山口市の病院で、脳梗塞と心筋梗塞を起こしていると診断されました。 ・その帰途は、病院で診療しながらでした。国の干渉が懸念されるのでどこかは言えないけど、ある市の病院でMRI(磁気共鳴画像診断書)を撮り、医師に「頭蓋骨と脳の間に隙間ができています。セシウムの影響でなることがある」と言われました。足からカテーテルを入れて、脳のステント手術を受け、血流が正常にもどり危機を脱しました。心筋梗塞は心臓の裏側の血管の細りが原因だと言われ、血管を膨らませる薬の投与を受けました。 ・福島や飯館から山口県に保養に行った子どもたち全員が、支援団体の好意で甲状腺検査と健康診断を受けられます。2014年の検査では何ともなかったのに、翌年膿瘍があるとわかったり、また検査を受けた全員が2年目に「要観察注意」と診断されました。全員の診断書を預かって帰り、中身を見ずに保護者に渡しました。 ・2年後その一人に「私、甲状腺に何かあるんだよ」と言われ、3年目に石灰化していると聞きました。メガネを掛けていなかった子が、翌年メガネを掛けて来ました。避難した仮設住宅の人たちも「目が悪くなった」と言っていました。子どもたちも健康について心配しています。

1(男性) 続き 福島県相馬郡飯館村

- ・原発問題で東京に行った時、「最近、近所の高校生が急性骨髄性白血病で亡くなった」と聞きました。福島県だけでなく、関東圏でも白血病は増えているようです。そういう専門家の話は聞きます。しかし、国や県はそういうことは言いません。
- ・皮膚が強い日焼けのように黒くなり剥がれた話は、他からも聞きました。「飯館は安全だって国が盛んに言うので、山で仕事をしたら皮膚が剥がれた」「地下足袋で山に入ったら足の皮が剥がれた」「山へ行くと海辺の急な日焼けと同じように顔の皮が剥がれる」
- ・山へ行くと、自分は両足の脛の皮膚が赤く痒くなりました。ナイフで掻きむしりたくなるほどの痒さです。しばらくすると皮膚表面が硬く乾いて白い皮が剥がれて来る。面積が広がって、今は背中が痒い。風呂に入ると皮膚が剥がれて湯に浮く。これは垢じゃない。
- ・周囲で、被曝原因と思われる最初の病気が脳梗塞、心筋梗塞でした。2013年には白血病になった人がいました。村長は「そういう病名、病気はここにはない」と強弁しましたが、「いや、白血病の診断を受けてます」。郡山の人も白血病になったと聞きました。
- ・2018年年1月に頭からフケでない何かがポソポソッと落ちて来ました。大きく皮膚が剥がれて、骨が見えるのではないかとくらいポロポロと落ちる。皮膚科に行くと、免疫力が落ちると感染症への抵抗力が下がり、微生物が繁殖して皮膚を食い荒らすことがあると言われました。薬はなく免疫力を上げるしかないとのこと。周りの人がいやがるので外出を控えました。今はだいぶ良くなったけど、時々ポロッと落ちます。
- ・それから、顔の骨の奥の方に痛みを感じたことがあります。皮膚の表面の痛みではなくて、顔の骨の奥なのです。
- ・ほかによく言われるのは、飯館の人は髪や爪や髭が伸びるのが早いということです。自分も散髪に行くたびに、「伸びるのが早いですね」と言われます。禿げていないところの髪が伸びるのが早いです。それから、腕の毛一、二本がぼつと急に四、五センチくらい伸びてるんです。頬の髭がピーンと伸びた人もいます。飯館には髪の毛が薄くなった人は多い。同級生に「頭禿げてるよ」って言ったら、「お前も禿げてる」って返された。
- ・飯館村の親戚が2019年、白血病の治療で県立医大病院の無菌室に入りました。
- ・知人の女性は、事故直後から歯茎から血が滲み出しているようで、いつも口の中に血の味がすると言う。

2011年3月11日から31日の申請人1(男性)の行動記録

・2011年3月15日の居住場所：福島県相馬郡飯館村小宮



2011年3月中の日時	行動記録	被ばくした可能性のあるブルーム番号
11日	飯館村小宮の山(木を伐採する仕事をしていた)にいて地震に遭遇	
12日	1号機の建屋爆発をテレビで見ている	
14日	3号機の建屋爆発は音が聞こえた	
15日夕方	飯館村小宮の自宅にて、朝から雨が夕方には雪にかわった。黒いものが降ってきた。金属の匂い、赤さび色の塵を見て、肌がビリビリする	P 3
15日夕方～	食べものを買いにスーパーへ行きその後風呂に入る時も肌のヒリヒリ感があつた。その後もテレビを見ているとビリビリ感がした。	P 3
16日～	飯館村小宮の自宅は標高の高いところにあり、15日以降も谷間に霧が深い、何日も続いた。	P 8
23日	知り合いの家に行き車を止めると霧の中で皮膚がビリビリして、腹が下った	
3月29日から5月末まで	津波で被災した相馬市の遺体探しに通うが、飯館村に戻ると腹が下る	1

2(女性) 福島県郡山市

- ・2011年3月11日、福島市で勤務中に東日本大震災が起こり、近くの体育館に避難しました。そこで、東京から出張中のサラリーマンのパソコンのインターネットで、津波の映像を見ました。12日に、勤務先から車で一時間の郡山市の自宅に帰りました。
- ・家に着く前に2時間並んで店で食料を買い、帰ると水道は止まりガスも使えない状態。ガソリンや水の確保のためには、戸外を歩かなければなりません。ペットボトルの水を購入し、インスタント食品など家にあるものを食べ、石油ストーブで湯を沸かす生活でした。魚や野菜は手に入りません。電気は通じていたのでテレビをつけ、帰宅1時間後に1号機の爆発を見ました。テレビではよく判らないのでインターネットで見て、十四日の三号機爆発は海外ネットで知りました。
- ・3号機爆発の時、東京の妹から「福島にいて大丈夫？ 6年生の娘だけでも東京に連れておいでよ」。新幹線もバスも止まり、ガソリンもない。3月23日に高速バスが走るようになり、24日に娘を連れて東京に行き、妹に娘を預けて郡山にもどりました。郡山市では体の異常はなく、異常はしばらく経ってからでした。
- ・4月11日に娘の中学校入学式があるので、4月9日に娘を郡山に戻しました。戻したことを今は悔やんでいます。
- ・同僚から、子どもが鼻血を出すようになったと聞きました。福島市在住で、七歳と四歳の兄弟が共に毎日出血するので、受診したら「のぼせ」と言われたが、心配だと。
- ・6月23日、娘が登校前、大量の鼻血が吹き出すように出ました。ドロドロしたレバー色で、量が多く、仰向いていれば止まるというようなものではありません。その後、学校から鼻血が出たと連絡が来るようになり、多量で制服に広がるほどでした。娘が郡山市に戻ってから3ヶ月経った頃、最も大きな鼻血が起こり、また寝起きに数回あり、娘は下痢や吐き気で学校を早退することが多くなりました。
- ・子どもたちを放射能から守る福島ネットワークの「子ども福島」に入り、情報が入るようになりました。神奈川県8月から自主避難者に提供する民間借り上げ住宅入居募集に申し込み、7月には休みを待たず、東京の妹のところに再び娘を連れて行きました。
- ・10月に川崎市の借り上げ住宅に転居しました。娘は転校を避けて東京で暮らします。夫は仕事の関係で転居できず、1,2ヶ月に一度会う程度、家族は別々になりました。

2(女性) 続き 福島県郡山市

- ・私が喉のかすれや痛みなど違和感を感じ始めたのは、避難して郡山市と行き来するようになってからです。福島市に住んでいた長女も、声がかすれて出なくなっていました。
- ・それは避難者の共通体験と言えます。避難した人達からも同じことを聞きました。あるお母さんは「子どもが保養先から戻ってくると、体調に異変が起こる」と言いました。私も夫と会うなどで郡山市に戻ると、必ず喉に違和感を感じるのです。
- ・第一原発から40km圏内の小野町に住んでいた義姉は、「事故直後からしばしば鉛くさい臭いが気になった」とよく言っていました。
- ・わが家では、2016年に家族3人の尿リットルを検査したら、全員セシウム137が検出されました。郡山市で生活し続けている夫の量は、娘と私より多かったです。(セシウム137の半減期は約三十年。ロナルド・レーガン乗組員は、金属つまり鉛、錫、アルミ、ウラニウム、セシウム、タリウム、カドミウムなどを排出するキレーション・セラピーを受けていたことが、セシリア・グレスさんの体験から判っています)
- ・川崎市に避難してからも健康状態は悪く、2013年9月頃から膝関節が痛み、夜中に熱が出るようになり、膝の痛みで椅子から立ち上がるのに時間がかかります。十日くらい経つと紅い斑点が出て来ました。病院勤務だったので医師から専門医を紹介され、膠原病の中のライター症候群と診断されました。ライター症候群の原因はサルモネラ菌、溶連菌、血液感染がきっかけで発症すると専門医から説明されましたが、どれも特定されず、どのように感染したのかわかりません。治療薬のステロイド剤は副作用があるので、強い薬から弱いのにまた強いのに、膝関節が痛くなる繰り返しが続きました。
- ・風呂に入っただけで、立ってられないほどの貧血症がありました。手のこぼりもありました。セカンド・オピニオンとして、他の医院で甲状腺ホルモンの血液検査をしたところ橋本病も患っていました。
- ・2016年から娘と私は、自主的に甲状腺エコー診断(超音波診断)を受けています。娘の最初の検査結果は、3ミリの結節があり、A2判定でした。「子どもには大きいのが、ようすをみよう」と言うことでした。私は、右の甲状腺に10ミリ、左の甲状腺に4ミリの結節があり、今は良性です。悪性になるか調べる必要があるのですが、毎年検査しています。自主的に検査をしないと、被ばくの影響があるかどうかかわからないのです。

2(女性) 続き

2011年3月15日から31日の申請人2(女性)の行動記録

- ・2011年3月15日時点の居住場所：福島県郡山市



2011年3月の日にちと曜日	行動記録	被ばくした可能性のあるブルーム番号
15日(火曜)	余震が続く中で自宅待機	P3
16日(水曜)	同上	
17日(木曜)	近くのガソリンスタンドに車の給油、灯油の確保のため7時ころから1時か程度並ぶ	
18日(金曜)	9時から15時まで幼児のため須賀川市へ移動	
19日(土曜)	同上	
20日(日曜)	余震が続くので自宅待機	PS
21日(月曜)	不明(自宅待機?)	
22日(火曜)	余震が続くので自宅待機	
23日(水曜)	次女の卒業式中止のため自宅待機	
24日(木曜)	次女を連れて一時、妹の住む東京へ娘を避難させるため13時30分に郡山駅発東京行き高速バスに乗る	
25日(金曜)	勤務先へ戻るため11時に東京駅八重洲から郡山行高速バスに乗り移動	
26日(土曜)	勤務先・福島県の百貨店に自宅から徒歩10分のバス停から高速バスで勤務が始まる	
27日(日曜)	同上	
28日(月曜)	同上	
29日(火曜)	同上	
30日(水曜)	同上	
31日(木曜)	次女の小学校卒業式のため9時～10時は近くの小学校へ	

3(男性) 福島市

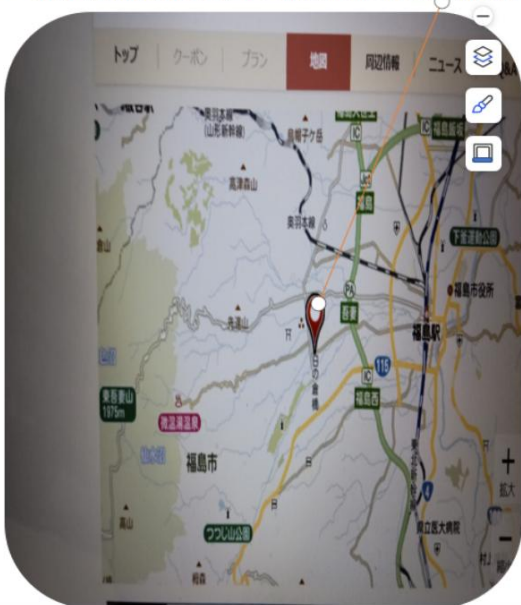
- ・例年3月は北西風が吹き、第一原発は福島市の風下になる。2011年はこれが逆になり、福島市が風下になった。浜通りの人は大変だなあといいながら、政府が放射線被曝について「直ちに健康に影響はない」としたことで、自宅に留まり続けた。
- ・2011年2月にNPOフォーラム庄野を設立し、農業を中心とした精神障害者就労支援事業を始めようとしていたが、その一ヶ月後の原発事故で畑は汚染され、ここで農業を軸とした就労支援事業は不可能になり、お先真っ暗になってしまった。
- ・その頃は自分も被曝者とは思いませんでした。東京五輪の野球などが行われた「あづま総合体育館」に、浜通りから2500余人が避難して来た。知人もいるかと3月12日に行ったが避難者が多く判らない。大変なことが起きていと思った。行くと老人たちが次々と亡くなっていった。避難者を励ましたい、と3月15日にNPOの役員会で相談し、NPO設立コンサートも合わせて体育館で開くことを計画し、準備を始めた。
- ・第一原発3号機が14日に爆発した後の高放射能渦中の3月15日から、コンサートの案内やチラシ配りのために市内の病院など23ヶ所を、それぞれ2回訪問した。放射線量の高かった大波、渡利地域、川俣地区、伊達市、二本松市に、4月2日のコンサートまでオルグ活動を延べ6日続けた。
- ・訪ねた病院では精神疾患の患者さんが満員だった。蓬萊町のうつみクリニックでは、事務員・看護婦・ケースワーカーを避難させ、医師一人で診察、事務・清算をしていた。山の上の松が丘病院では水道が止まり、山の下の方井戸から総動員でバケツで水を運び、院内の水を確保していた。医師が避難したところもあり、どこも精神疾患の医療体制が異常になっていた。ケースワーカーの避難退職がしだいに増えた。

3(男性) 続き 福島市

- ・事故から5年の間に**著しい体調変化**を体験し、七ヶ所の病院、クリニックを受診した。
- ・2011年4月5日：**高血圧**(120台から160台へ)急上昇。
- ・2011年6月：**急性下痢と嘔吐**。
- ・2011年7月：**一週間以上の下血**。福島市南東北病院で大腸検査。大腸ガンは発見されなかった。
- ・2013年12月19日：就寝時、20分ほど胸が締め付けられる痛みが走り、**急性心筋梗塞**の疑い。南福島循環器病院で血液検査、尿検査、心電図検査、コホート検査を受けた。20分程度**心筋梗塞**があった由。
- ・2014年1月：**痛風の発作**。痛風は年何度か発作が起き、痛み止めを持ち歩く。
- ・2014年10月：医師から促され、ふくしま共同診療所の市民検診で甲状腺エコー検査を受け、**甲状腺左葉に13mmの結節**が見つかる。**膵臓ガンの疑い**も発見。経過観察続行中。
- ・2014年11月：南東北病院で膵臓のCT検査。膵臓でなく**胆管に異常**。翌年、郡山市の南東北病院で再受診。「95%大丈夫だろう」とのこと。知人の胆管ガンの経緯を知っていたので、寿命を覚悟。
- ・2016年12月1日：**ガンを含む甲状腺全摘手術**。転移の疑いがある**リンパ節は削り取った**。手術は4時間に及び、気管の裏側に貼りついたガン細胞を剥がすのに1時間かかった。目覚めた時「出血が少なかったね。予定通り摘出しましたよ」と微笑む医師の顔に手術の成功を知ってほっとした。喉には15cmの傷痕が残った。
- ・2011年まで福島に22年間住み続けたが、定期健康診断を受けたことはなく、痛風で年1度の医者との診察のみ。風邪も市販薬で済んだ。医大病院の医師は「原発とは関係ない」と言ったが、私の**甲状腺腫瘍は1年半の間に進行性ガンに変化した**。体調変化は原発事故由来の放射線被ばくの影響と、強く疑っている。
- ・事故後、家族や親族にも健康影響が現れた。2人の娘とその家族7人が福島市内に住んでいた。孫3人は事故直後から**全員が鼻血**を出した。長女は2012年5月に、次女は6月にそれぞれ**稽留流産**した。さらに長女は2014年に7ヶ月の**早産**。孫は**弱視障害**で**目がよく見えない**。2015年に横浜市、2-16年に宇都宮市、2020年に福島市に住む3人の義弟が**前立腺ガン手術**、2018年1月に福島市に住む**義父が大腸ガン手術**を受けた。川内村から郡山市に避難した義兄は**脳梗塞**、姉は**白内障**になった。
- ・事故後の庄野地区148世帯で、甲状腺疾患の患者が7人。うち3人が甲状腺ガン手術後、肺転移などで死亡。2016年、54歳の女性が、子宮頸ガンの全身転移で死亡。

2011年2月から3月の申請人3(男性)の行動記録

・2011年3月15日の居住場所：福島県福島市庄野字原田3の5：NPO法人ファーム庄野(精神障害者支援事業)



2011年2月～6月	行動記録	被ばくした可能性があるブルーム番号
2011年2月	NPO法人ファーム庄野(精神障害者支援事業)設立	
3月12日	避難者が集まっているあづま総合体育館に知人を探しにいった	
3月15日	ファーム庄野で「NPO設立コンサート」の準備開始	P3
3月15日～	コンサートのチラシを配布するため、福島市内や市外の病院23か所を回る。川俣町、伊達市、二本松市にも行く	P3,P8
3月15日～	コンサートの宣伝のため活動を6日間続ける	P3,P8

4(男性) 南相馬市小高区

- ・私と伴侶は、2011年3月11日までは著患なく健康な日々を送っていました。
- ・福島第一原発事故の炉心溶融が始まった2011年3月11日から3日間、原発から歩北西18kmの職場(小高病院)に留まって被ばくした。
- ・その後、いわき市を経て南会津に避難し、3月18日から23日まで東京～川崎に避難しました。
- ・その後何度か小高病院建屋に出入りしていましたので、一定量の追加被ばくをしました。
- ・事故後、2012年頃から順次、**歯の痛みとグラつき**が出て**5本の抜歯**を余儀なくされました。
- ・2014年には**不整脈**が出た。
- ・2015年3月には**転倒して腰椎圧迫骨折**。
- ・2015年12月には**デノボ型結腸がん**が判明、手術+抗ガン剤投与による治療を受ける。
- ・わたしの伴侶は2016年から**高度不整脈**が現れて心臓ペースメーカーを植え込み、以来徐々に**心臓病が悪化**して現在は**心不全状態**になってしまいました。
- ・私の職場や同僚やその家族の中には、**肺がん、乳がん、膀胱がん、前立腺がん、甲状腺がん**などを発症した方がおられます。

2011年3月11日から31日の申請人4の行動記録

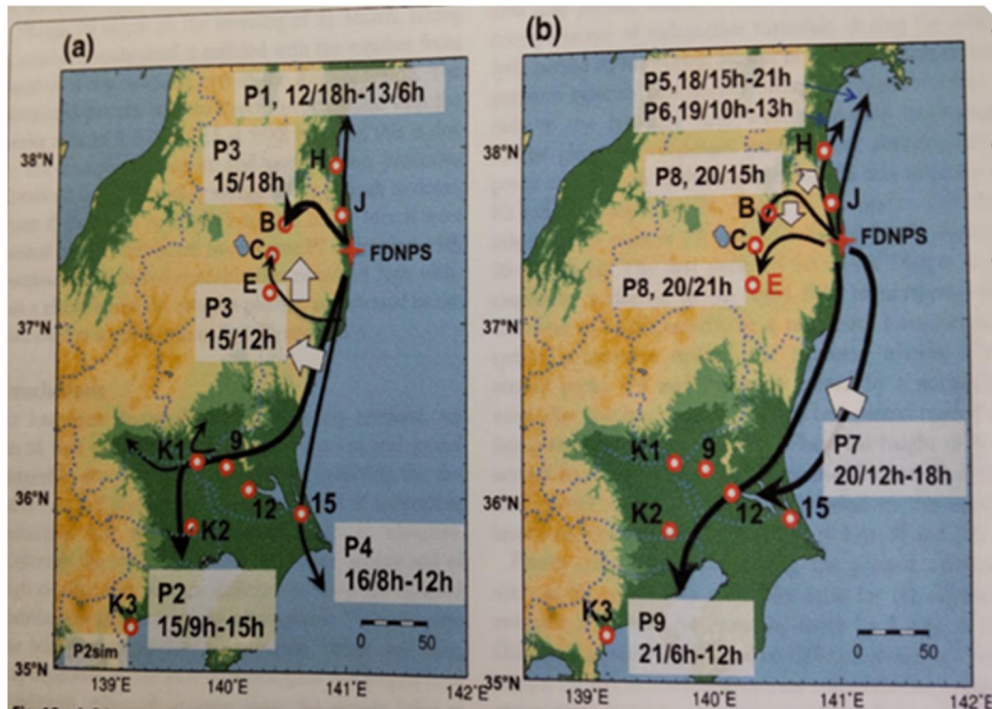
- 2011年3月11日～14日時点の居住場所：
小高赤坂病院（南相馬市小高区）



2011年3月日時	行動記録	被ばくした可能性のあるプルーム番号
11日～14日	南相馬市の①小高赤坂病院に滞在	P1
14日～15日5時まで	小高岡坂病院からいわき市中央台高久の②いわき光洋高校へ移動	P2
15日5時～12時	いわき光洋高校から③南会津田島高齢者センター(南会津町永田枇杷影2)へ移動	P2
15日15時～18日7時	南会津田島高齢者センターに滞在	P3
18日7時～2時	東京都立松沢病院(東京都世田谷区上北沢2-1-1)に向けI那須経由でバス移動	
18日12時～18時	東京都立松沢病院に滞在	
18日20時～23日	長男宅(神奈川県川崎市麻生区白鳥)に滞在	P9
23日7時～12時	福島市へバスで移動	
23日12時～17時	福島市に滞在	
23日17時～9時	福島市から南相馬市へタクシーで移動	
23日19時～24日9時	官舎(ブッシュクローバー)、南相馬市原町区旭町4丁目に宿泊	
23日9時～18時	仙台市泉区高森4丁目自宅へ自家用車で移動	
24日～3月末	仙台市泉区高森4丁目の自宅で避難生活	

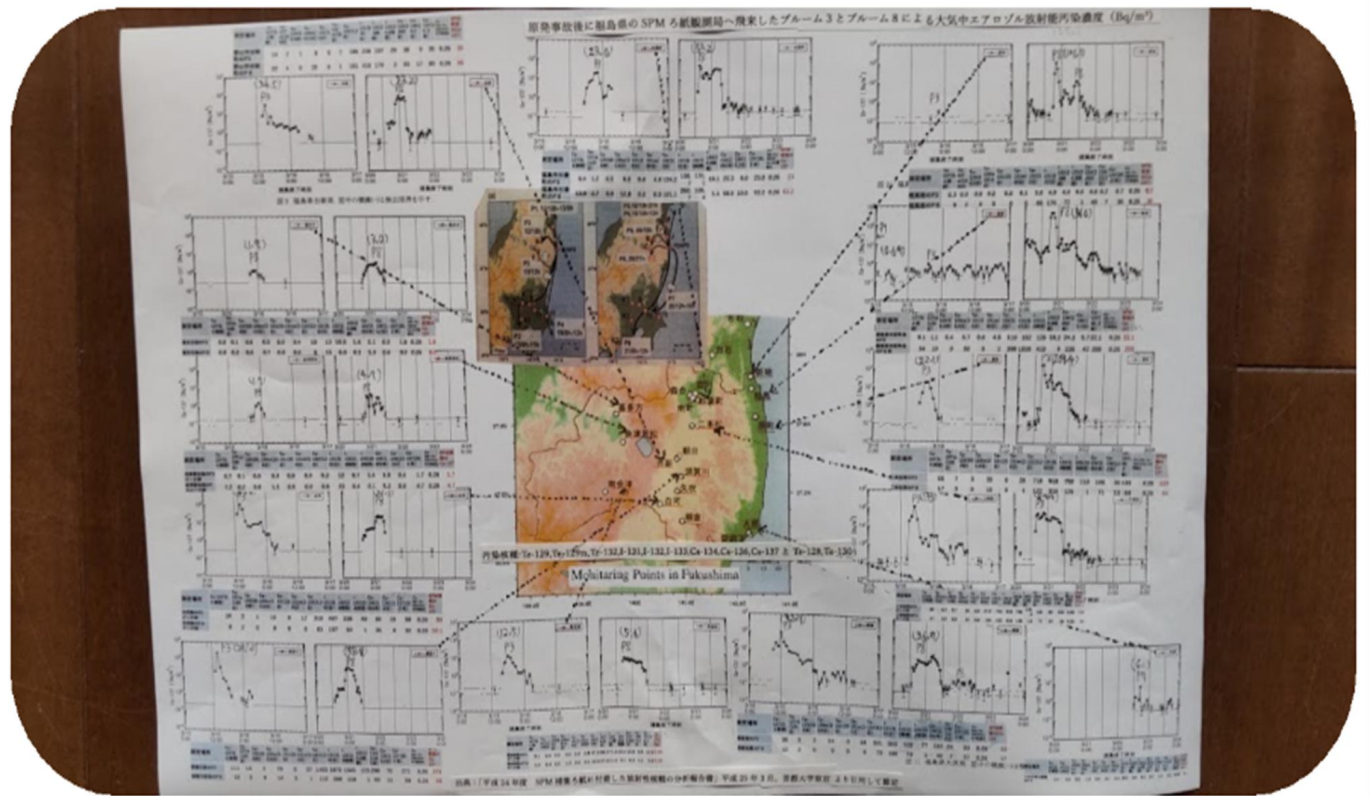
4(男性)
続き

福島第一原発事故から放出された放射性セシウムの大気流れプルーム(P)のモデル図



図中のBは二本松市、
Cは郡山市、Eは矢吹町、
Hは新地町、Jは南相馬市原町

原発事故後に福島県内のSPM観測局に飛来したP3,P8プルームの放射能濃度(Bq/m³)

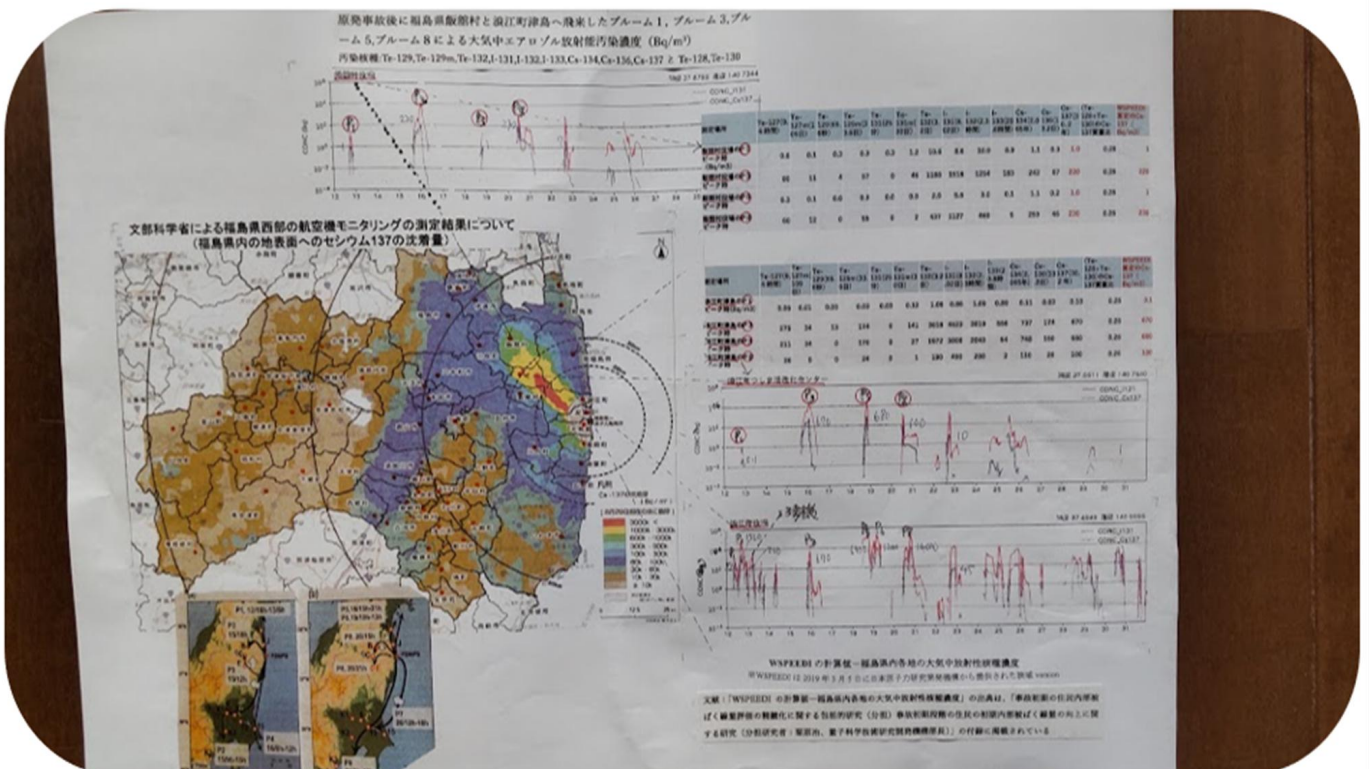


2023/11/12

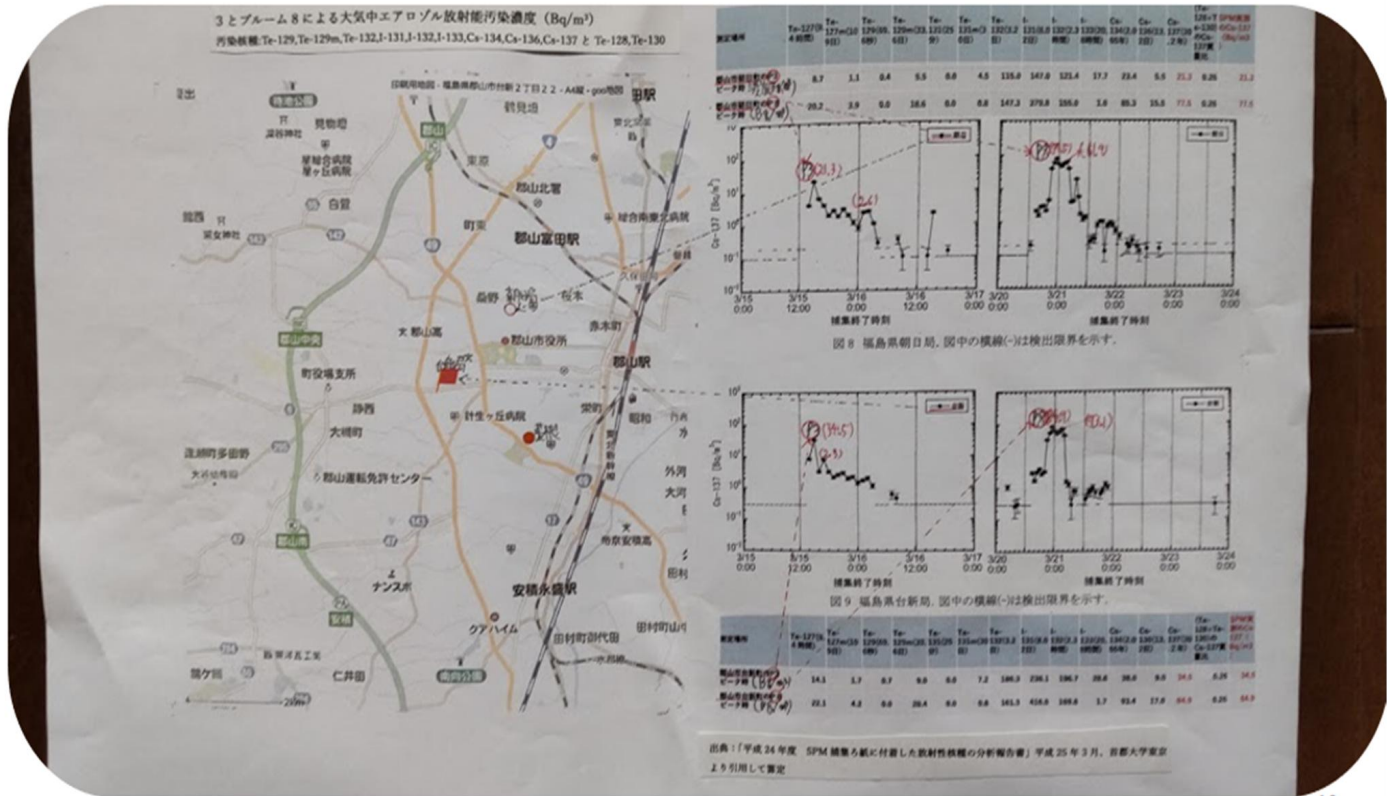
山田國廣著: 公害調停申し立て人の被ばくプルームと放射能濃度(Bq/m³)の確認

6

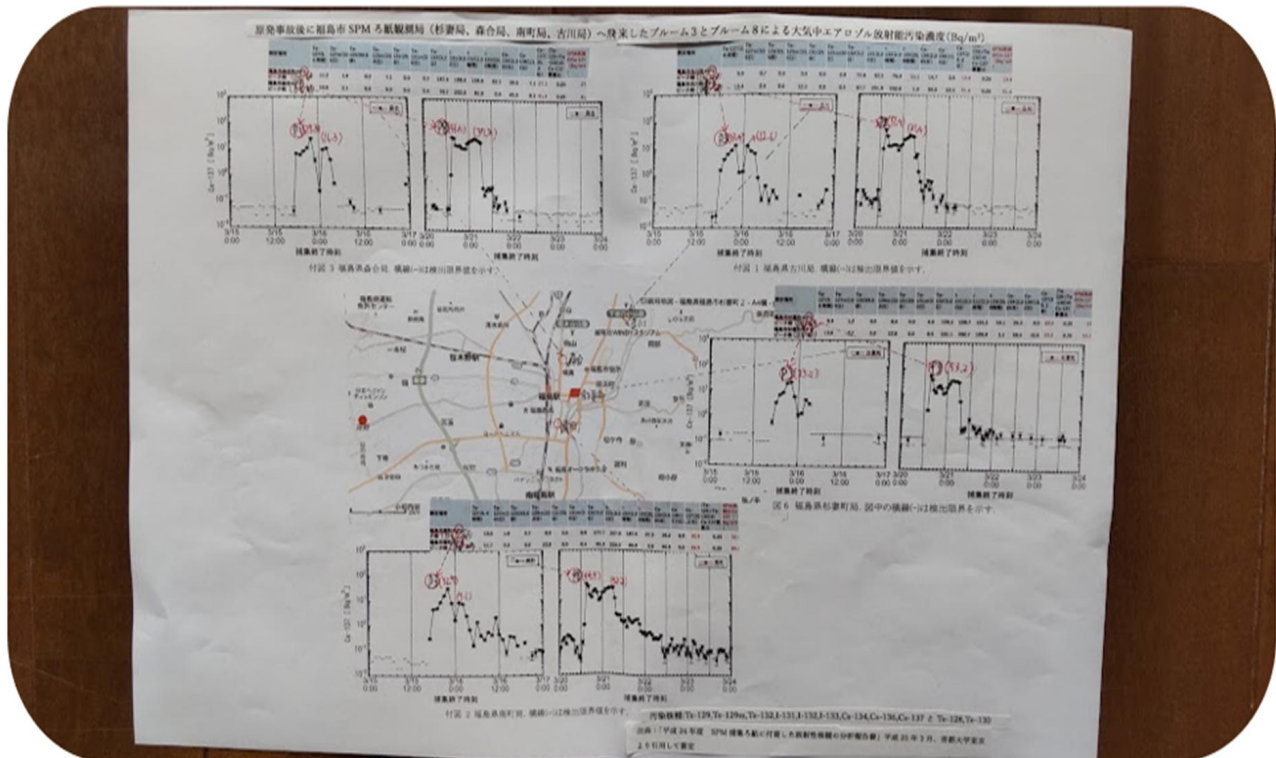
申請人1は飯舘村役場に飛来したP1,P3,P5,P8に被ばくしていた。



申請人2は郡山市朝日局、台新局に飛来したP3とP8に被ばくしていた



申請人3は福島市杉妻局、森合局、南町局、古川局へ飛来したP2,P8の被ばくしていた。



申請人4は南相馬市原町局に飛来したP1,P3に被ばくしていた。

